

# 薪ストーブによる火災を防ぎましょう！

当消防本部管内では、例年、秋から春にかけて、薪ストーブに起因する火災が複数件発生しています。

薪ストーブは誤った方法で設置、使用すると火災を引き起こす可能性がありますので、次のことに注意しましょう。

**薪ストーブや煙突は正しく設置し、定期的に点検や清掃を行いましょ**う。

煙突の貫通部分は遮熱材の材質や厚みの不足から、煙突の熱が木材等の可燃物に伝わり、火災になる場合がありますので、薪ストーブを設置する場合は、知識のある専門業者に依頼するようにしましょう。

また、湿った薪を使用すると、煤やタールが多く発生し、煙突内に溜まり、異常燃焼を起こして火災に至る可能性があります。薪は十分乾燥したものを使用し、定期的に薪ストーブの本体、煙突、煙突の貫通部分の点検を行いましょ



煙突の貫通部は  
めがね石を使用し  
ましょう！



誤った施工方法  
や使用方法ではあ  
りませんか？



# 薪ストーブの周囲には燃えるものを置かないようにしましょう。

薪ストーブの近くに可燃物があると、くずれて接触し、熱で発火する場合があります。

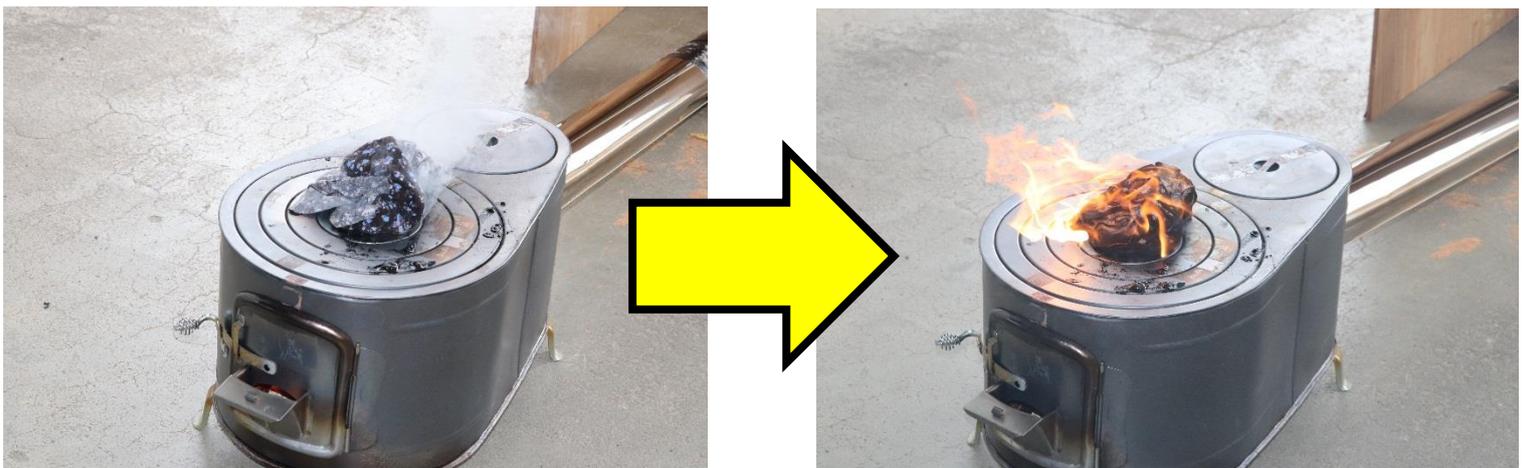
また、薪ストーブの上方に洗濯物を干すと、水分が蒸発して軽くなった洗濯物が熱気による空気対流で薪ストーブの上に落ちて着火する可能性がありますので、薪ストーブの周囲には燃えるものを置かないようにしましょう。

燃焼室の扉や蓋が開いていると、火の粉が飛散して火災になる場合があります。薪ストーブから離れる際は、扉や蓋を必ず閉めましょう。



## 【火災事例】

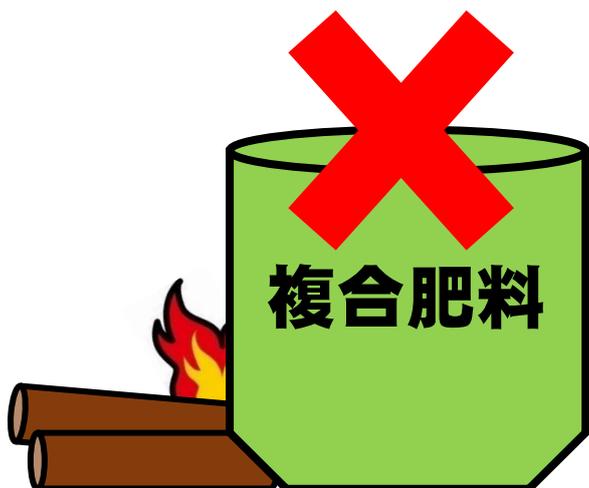
薪ストーブの上に干していた洗濯物が高温の薪ストーブに落下して出火！！



# 取灰の処理は、**完全消火を確認し、正しく行**いましょう。

取灰の中には、火種が残っていることがあり、蓄熱により半日から1日ほど経過した後に周囲の可燃物に着火する場合があります。

肥料袋やポリバケツなどに捨てず、火が完全に消えたことを確認してから、**蓋のある不燃性の取灰入れ**に入れて処理しましょう。



冷めるまでは、  
可燃物の近くには置かないように  
しましょう。

